

コーネル大学再訪

国広 哲弥

1974年に半年ほどコーネル大学に滞在したのだが、いろいろな運のめぐり合わせで丁度15年ぶりの1989年に私は再びコーネルに滞在する機会に恵まれた。両方共フルブライト奨学金をもらうことができた。キャンパスは相変わらず美しく、ネコの額ほどのダウンタウンもいつものようにひっそりしていた。前回に心を奪われた秋の紅葉の美しさに今回も出会うことができた。

前回と同じように研究会や講演会もさかに行なわれていた。7年前に半年滞在したカリフォルニア大学バークレー校でも同様であり、この2つの大学にアメリカの大学を代表してもらって日本の大都市地域の大学と比較すると、決定的に違うのはこの研究会の点である。学部単位で同僚の間で開かれる研究会はコーネルの場合週1回で、それにお客さんの講演会が月に数回加わるが、私の前任校である東大文学部の場合、似たような会は月に1度だけであった。アメリカの方で可能な職住接近が東京などでは考えられないとか、伝統の違いとか、理由はいろいろあるが、同僚間の研究会はいろいろな意味で多い方がいいように思う。耳学問になるし、同僚が何に興味を持っているかを知ることが付き合いの上で大切である。そしてアカデミックな雑談を楽しむことができたなら最高である。東京では一杯飲みながら雑談を楽しむ機会が割に多いが、たいていの場合まわりに騒々しい相客がいて、落ち着いた雰囲気は望めない。それにしても日本人の飲むグループは大声でわめき散らすものである。むかし、4、5人の同好者が集まって日本語の類義語の意味について討議し、その結果を本にまとめるという仕事を9年続けたことがあるが、月2回の集まりのときの仲間がそろうまでのひと時の雑談が楽しかった。いつもあ

とで、速記しておいたら楽しい読物になるだろうなあと考えたものである。それかと言って本当に速記することになれば途端に話しがつまらなくなるに違はなく、ここにも「自然な会話の記録の逆説」が認められる。(cf. Labov's Observer's Paradox)。

コーネルでは2度共日本語学科に所属した。前は主任の Eleanor Jorden 先生が別個に毎週言語教育法についてのセミナーを開いていた。いろいろな外国語の先生が集まるので面白い話し合いになった。今回は新しい主任の John Whitman さんが大学院生を集めて日本語文法の論文を読む会を毎週開いていた。こういう論文を読むという会はコーネルでは初めてだそうで、Whitman さんはこの方法を筑波大学に留学していたとき、英語学の安井稔先生から学んだのだと言っていた。その日本語文法の会に私も出席し、いまはやりのGB理論のことを多少学んだ。その中でも特に面白いと思ったのは、G.N. Carlson が唱えたという場面・文脈の性質の2つのタイプとしての 'stage-level' と 'individual-level' の区別である。個々の語の意味にもその区別が認められることがある。'stage' というのは具体的な時間・空間が前提になっている場合で、'individual'の方はそれを超越して主題について何かが言われる場合である。

(1) I only said that blowfish are available.
(stage-level)

(2) I only said that blowfish are poisonous.
(individual-level)

この区別は「が」と「は」の問題にも当てはめることができそうに思われる。

この外国語研究センターを中心にして、語学サロン風な雑談の機会がもっとあるといいと思う。

日本語教員養成課程について

—志望学生数に対する担当教員の不足—

氏家 洋子

日本語教員養成コースが全学部 of 2 年生に向けて副専攻として開設され、4 年目を迎えた。形ができあがってしまうと、それを決め手として本学を選んだという学生にも出会うようになる。昨年赴任し、お膳立てのできあがった中で本コースを担当することになった者として、把握できた現状の一端をここにまとめ、問題点を整理してみる。コースの主体である学生、また、周辺に位置する関係者がより充実したコースを作り上げていくための資料提供となればと希う。

表 1 は本コースを希望しても全員を受容れることのできない現状を示している。その理由としては専らコースの担当を任とする専任教員が最低複数名必要（これは当初の予定でもあったと聞く）とされるのに不足していること。また、4 年生での教育実習の受容れ先の問題がある。（今年は 5 月に、実際に授業を担当させてくれる横浜市内の飛鳥学院に全 18 名がお願いできた。）次に、許可者と修了者の数には異同がある。3 年生の前半まで続くか否かが分かれ目であり、89 年度許可者の修了者数はそこから推定した。しかし、同一科目に複数の授業が用意されていれば修了できた（る）

表 1 本課程の学科別志願・許可・修了者数

| 学部・学科 | 年度 学生数 | 1987 | | 1988 | | 1989 | | | 1990 | |
|-------|-----------|-------|------------|------|----------------|-------------|----|----------------|--------------|----|
| | | 許可 | 89年度 修了 | 許可 | 90年度 修了(予定) | 志願 | 許可 | 91年度 修了(予定) | 志願 | 許可 |
| 工 | 工業経営 | 0 | 0 | 1 | (1) | 1 | 1 | (1) | 0 | 0 |
| 法 | 法 律 | 2 | 1 | 2 | (1) | 1 | 1 | (2)* | 0 | 0 |
| 経 | 経 済 | 3 | 2 | 1 | (0) | 0 | 0 | 0 | 8 | 5 |
| 外 | 貿 易 | 4 | 0(留学 2) | 3 | 帰国 (2+2) | 4 | 4 | (3) | 4 | 1 |
| | 英 語 | 19 | | 11 | 13 | 留学 (9-1) | 18 | 14 | 帰国 (12+1) | 22 |
| | 西 語 | 15 | 7 | 10 | (3)(留学 1) | 4 | 2 | (2+1) | 13 | 10 |
| | 中 国 語 | _____ | | | | 13 | 9 | (9) | 8 | 2 |
| 計 | | 43 | 21 | 30 | (16+1) | 41 | 31 | (29+2) | 55 | 30 |

1990 年 6 月現在

1987 年度と 1988 年度は許可のしかたが 1989 年度以降と異なるので、志願者数は省略する。

* 90 年度卒業予定で時間割の都合で 91 年度の聴講により修了する予定。

というケースもある。

表 2 は本コースの担当者に関し、特にこの 4 年間で異なりがあった場合を挙げる。ここには事情が許せば（許す条件が整えられれば）担当可能な教員の少なくとも一端が現れていると言える。並んだ科目名からも多岐にわたることが歴然とした、この純粋言語学と応用言語学にまたがる分野に専任で当たる担当者が最低複数名必要なことは当初の採用予定者数決定の段階で了解されていたことと思う。その実現への準備に時間が必要なら、その間、次のような手だても考えられる。それは非常勤教員の持ちゴマを 1 から 2 にしたり、また、経験と情熱のある担当経験者に当人の採用時の担当科目が何であるかを超えて、コースの科目担当にまわって貰える条件を整えることである。

以上は一例であるが、本コースをどこまで充実していけるか、あるいは、本学の人材を活かすことにどこまで努力をなし得るかは日本そして日本語の国際化を本学の成員がいかに関与し、それにいかかわろうとしているかのバロメーターになると考える。

表 2 本課程専門必修科目の担当者の異同

| 科目名 | 単位 | 担 当 者 名 | | | |
|-------------|----|---------|------|-------------|-------|
| | | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 |
| 日本語学 I (概論) | 4 | 高野 | 高野 | 高野 | 氏家 |
| II (音声) | 2 | 高野 | 高野 | 金田(非) | 金田(非) |
| III (文字・表記) | 2 | —— | 高野 | 金田(非) | 金田(非) |
| IV (文法・文体) | 2 | —— | —— | 氏家 | 氏家 |
| 日本語史 | 2 | —— | —— | 氏家 | 高野 |
| 日本事情概論 | 2 | ボチャリ | ボチャリ | 氏家 | 上条 |
| 日本語教育法 | 4 | —— | 保崎 | 氏家 | 氏家 |
| 日教教材教具論 | 2 | —— | 水野 | 氏家 | 氏家 |
| 日教評価法 | 2 | —— | —— | 氏家 | 氏家 |
| 日本語教育実習 | 2 | —— | —— | 上条・小池 氏家 | 氏家 |

(非)は非常勤教員

ほかに、異同のない対照言語学（英語—深沢、西語—木村、中国語—那須の各先生）がある。

ニューメディアと外国語教育： New Media, Why Bother?

保崎 則雄

1985年のCEC（〔財〕コンピュータ教育開発センター）の設置以来文部省もいよいよ本腰を入れて、教育へのニューメディア導入を支援、推進し始めた。コンピュータ、ビデオ云々といわずニューメディアという言葉を使用したところに文部省の努力のあと（苦しさ）が伺える。初等中等教育段階ではすでにコンピュータがかなりのスピードで導入され実践報告も多く行われている。一方、文部省の指導要領の上でも平成5年度より中学の技術家庭の時間に情報基礎という科目が始まることとが決定している。情報基礎といっても実際にはコンピュータに代表される情報メディアの操作と関連知識を教えることになるだろうが。

あちこちの高等教育機関もこの一連の動きと前後してニューメディア導入に積極的である。大学としても高校までニューメディアになれ親しんできた学習者達をその延長で受け入れる責任がある。一応中学、高校までにコンピュータの操作については済んでいることになるので、コンピュータの使い方を中心に教えるのではなく、ある概念の学習過程に操作の仕方を盛り込んでいくという形がよいであろう。よくいわれるコンピュータ道具論ということになる。

好むと好まざるとにかかわらず、コンピュータテクノロジーの利用は極く一般的なものとなってきた。教育利用に消極的な人でも研究用としてワープロぐらいは使っている人が多いのが現状である。まして計量分析に絡む研究を行っている人にはコンピュータは欠かせない便利な道具である。

ただいくら便利な道具だといっても一時のおもいつきでコンピュータを教育に導入するわけにはいかない。単に利用すれば新しいメディアゆえに興味を持ち、教育効果があるという面（新奇性の効果）も確かに報告されているが、ある程度長期的利用を考える場合、むしろ問題となるのは利用

方法であり、カリキュラム、担当科目・教員を含めた利用環境である。例えば外国語教育の面では、次のような利用がすぐにも考えられる。

1) パソコン通信を利用する外国語教育：Language Teaching through Telecommunication System

海外交通で外国語学習をするという方法が伝統的にある。それはそれで効果もあり、これからも続けられてしかるべき外国語学習の一つである。ただ海外文通は時間がかかり過ぎる。時間がかかってよいこともあるのだが、外国語をコミュニケーションの手段と割り切ってできるだけ短時間に多くの情報を処理するという点においては、コンピュータを使った通信、つまり、パソコン通信が効果的で面白い。フィードバックは電話ほどではないにしてもかなり早い。現実には時差が12時間ほどある国同士では電話もさほど便利とはいえない。その点送り手が情報をコンピュータの記憶にとどめておいて、受け手が好きなときに処理できる通信環境は魅力的である。語学交換という形にすれば、学習者も興味を持ちやすく、負担も軽減されてくる。

2) 音声多重放送・衛星放送を利用した外国語教育：Language Teaching by Multiplex and Satellite Broadcasting

音声多重放送は開始以来新しい語学学習方法として注目をあびている。ただし結局は同時に両語で聞くわけにもいかず録音しないと学習にはあまり意味がないという限界もあることはある。英語か日本語どちらかで見ないとややこしくて楽しめない。結局は、外国語で理解しようとするのが最終目標であるのだから、それなら最初から目的語での理解を目指すという方法もある。大抵の音声多重放送番組は語学学習用に作られたものでは

なく、語学学習にも使えることはないですよというにすぎない。

衛星放送番組にしてもこの点はさほど変わらないが、こちらは即時性の強いものが多い。外国人向けに作られたものでもない。これがいいのである。スポーツが好きならその番組を理解して、楽しもうとする。その結果語学力もつくのである。学習のための学習は大抵面白くなく、長続きしないことが多い。その点容赦なく異文化が飛び込んでくるいくつかの衛星放送の番組は語学と文化のよい教材である。

3) インターアクティブビデオ (CAI とビデオとの組み合わせ) による外国文化・言語教育: Language Teaching Using Interactive Video Systems

コンピュータがビデオテクノロジーを自在に制御するインターアクティブビデオはこの数年注目されている(詳しくは創立60周年記念論文集 pp. 427-447参照)。学習者が自分の学習を制御することもでき、個別学習方法としては、非常に興味の持続するものではなからうか。適切な非言語コミュニケーションを伴った会話の学習にはビデオテクノロジーは欠かせない。ビデオディスクを利用すれば、再録は非常に困難であるが、検索時間が格段に短くてすむので学習者が飽きない。一方ビデオカセットの長所は教材が比較的簡単に制作できること、また内容を思うとおりに変えることができる点である。目的語の母国人とのチームワークで効果的な学習教材が制作でき、それをCAIでのテキストやグラフィックスと組み合わせれば、語学教育面でいろいろなことができるであろう。

4) スタジオを利用した外国語教育: Media Production Using the University Studio

20号館のスタジオを外国語教育の教材作りに使用することはすでにいくつかのゼミ、クラスで行われてはいるが、これをさらに充実させていく必要がある。

これからの課題は映像情報処理、つまり録音、ビデオ撮りの際の基礎的なことを導入する授業を

カリキュラムに導入することであろう。たとえば、照明の基礎知識、ストーリーボードの書き方、カメラワーク(ティルト、パンニング、ズーム、アングルなど)の基礎知識、モンタージュ技術・理論、メディア表現など一応基礎として知っておかなくてはならないことをまず学生が学ぶことが必要である。

現代、近未来は文字情報より映像情報をいかに効果的に利用、応用するかという時代である。そういった内容を扱う授業がないのはこれだけの規模の大学としては不備である。手間はかかるが、メディアとしてのスタジオを十分に生かした外国語教育が多くの教員によりなされることを望む次第である。

以上の外国語教育の方法の他にも、多額の設備投資を必要としないニューメディアの語学教育利用法はいくつもあると思われる。大学を構成する人間の革新性、向上心次第でまだまだ大学教育はよいものにできるはずである。大学人は伝統的なもののよい部分をうまく残し、それに新しい可能性を思い切って加味することをもっと真剣に論議し、実施すべきではなからうか。大切なのは大学教育担当者(管理者も含めた)がどのような人材を卒業生として輩出したいのかという将来的展望をしっかりと持つことである。それはどれだけ時代の要求を読むことができるかということであろう。外国語教育で、具体的に学習者に今どういった技能、経験、知識が要求されていて、それに合わせて我々はどうのような人材を社会に送り出したらいのか。こういった議論がもっと活発に学部を越えてされねば、大学が魅力あるものとして受験生、学生には映らないであろう。

☆学会予告☆

第16回日本言語科学研究会

日 時: 1990年7月28日(土) ~ 29日(日)

問い合わせ: 国際基督教大学言語科学夏期講座
事務局

T E L 0422-33-3205

翻訳／誤訳 (1)——原文への忠実さ

倉田 清

外国語の翻訳には、当然、順序として二つの段階がある。つまり、原文を正しく理解する段階と、それを日本語で正しく表現する段階である。とにかく、原文の持つ生きた力とそのリズムを日本語に移さなければならないのであるが、あまりにも直訳的表現は読者の理解を害なうし、不快感を与えてしまう。そうかといって、あまりにも自由な、つまり、独断的な意識も原文への忠実さを失ってしまう。

近年、文学、哲学、社会学、歴史学、法律、経済、科学、技術等あらゆる領域の優れた著作が続々と日本語に翻訳されてはいるが、単語の持つ意味を深く解釈せず、翻訳技術も拙劣な仕事をする翻訳者が少なくないようである。

一つの例を挙げよう。原文はサン・テグジュペリ Saint-Exupéry の傑作『人間の土地』(Terre des Hommes) の序文にあたる重要な部分の一部で、ある高名な詩人による、ある有名な出版社から刊行されている訳本に見られる訳である。

Le paysan dans son labour, arrache peu à peu quelques secrets à la nature, et la vérité qu'il dégage est universelle.

「農夫は、耕作している間に、いつか少しずつ自然の秘密を探っている結果になるのだが、こうして引出したものであればこそ、初めてその真実その本然が、世界共通のものたり得るわけだ。」

の部分にはまったく余計な語訳であり、の部分には適当ではないと判断される。基本的な重大な間違いがあるからである。arracher quelques secrets à la nature : arracher ~ à ...は「……から～をむしりとる」。したがって、「いくつかの秘密を自然から取り出す」という意味である。universel には「世界的な」という意味のほか、「普遍的な」、「すべての人の」、「すべてに人のための」という意味があることも基本的な知識である。

したがって、訳文は、次のようになる。

「農夫は、耕作している間に、自然からいくつかの秘密をすこしずつ引き出す。そして、彼が取り出す真実は普遍的なものである。」

上述した訳文の結びのところにも、極めて重大な間違いがある。原文は、Il faut bien tenter de se rejoindre.

「努めなければならないのは、自分を完成することだ。」

この原文は、サン・テグジュペリが“友愛の理想”を語ったもので、se rejoindre を「自分を完成する」と訳した場合、前後のつながりがまったくなくなってしまう。それに、se rejoindre は se perfectionner 「自己を完成する」ではなく、「(傷口などが) 接合される」のほかに、「(二人が) 落ち合う」、「(二つの道が) 一緒になる」という相互的な意味がある。そして、原文は、tenter の意味上の主語を省略した第3人称の表現になっており、次のように理解すべきであろう。

Il nous faut tenter de nous rejoindre.

したがって、訳は、

「われわれはお互いに一緒になろうと試みなければならない。」

このように訳してはじめて、原文の友愛の連帯感が表現出来ると思う。

(筆者は外国語学部教授)

☆学会予告☆

日本中国語学会第40回全国大会
日 時：1990年10月13日(土)～14日(日)
発表分野：文字・音韻・語彙・語法・方言
教育・対照研究等
場 所：京都市北区上賀茂本山
京都産業大学
TEL 075-701-2151

外国語研究センター 1989年度活動報告

(1)「言語研究」の発行

No.12 平成2年3月1日

(2)「NEWS LETTER」の発行

No.4 平成元年7月

No.5 平成2年3月

(3) 講演会

イ と き 平成元年5月19日(金)
テーマ 「語用論における会話的含意」
講 師 小 泉 保 氏

(大阪外国語大学教授)

ロ と き 平成元年11月1日(水)
テーマ 「国際放送の実情」
講 師 坂 卷 博 和 氏

(NHK国際放送局)

ハ と き 平成元年11月24日(金)
テーマ 「言語論の転回 一意識から言語
行為へ」
講 師 野 家 啓 一 氏

(東北大学助教授)

ニ と き 平成2年1月17日(水)
テーマ 「スペインの地方自治と言語」
講 師 マヌエル・ビジャビエハ氏

(スペイン大使館公使参事官)

(4) 語学教養講座

期 間 平成2年2月26日(月)
～3月9日(金) 10回

A. 実用英語講座

講師 伊藤克敏教授 石黒敏明助教授
保崎則雄専任講師 上條雅子助教授
松山正男教授 疋田 三良教授
メレデス・ヘーゼルリッグ非常勤講師
ジョセフ・マルリン氏

B. 教養英語講座

講師 水野晴光助教授 石黒敏明助教授
保崎則雄専任講師 上條雅子助教授

松山正男教授

メレデス・ヘーゼルリッグ非常勤講師

鈴木英允教授 岩崎豊太郎教授

C. 初級スペイン語講座

講師 大林文彦教授

アマデオ・イリエラ助教授

藤田一成教授 橘川慶二助教授

D. 中国語教養講座

講師 小島晋治教授 那須 清教授

鈴木陽一助教授 山口建治助教授

尾上兼英教授 佐藤 進助教授

大里浩秋専任講師

☆学会予告☆

第22回白馬夏季言語学会

主 催：名古屋言語研究会・中部応用言語学
研究会

日 時：1990年8月20日(月)～23日(木)

会 場：長野県北安曇郡白馬村

特別講演：8月23日(木)

笈 壽雄 先生(神戸大学)

「オノマトペの機能と表現力」

申 込 先：〒463 名古屋市守山区白山1-1004

吉川 寛方 TEL 052-774-3677

第22回白馬夏季言語学会事務局

★新着案内★

☆視聴覚資料

録音資料

ヒアリング中国語

問いかける中国語：疑問文を中心と

した初・中級ヒアリング

中国道教音楽 上海巻迎仙客

評弾西廂記

范上娥古筝濁奏

民衆少数民族曲

ビデオで巡るバイエルンの旅

= Eine Reise durch Bayern

英会話110番：こんなとき

どう言う？ 発音編

英会話110番：こんなとき

どう言う？ 日本紹介編

アメリカ留学会話110番

：こんなとき どう言う？

ホームステイ英会話110番

：こんなとき どう言う？

中国語会話110番：こんなとき

どう言う？ 日常生活編

中国語会話110番：こんなとき

どう言う？ 中国旅行編

フランス語会話110番：こんなとき

どう言う？ 日常生活編

フランス語会話110番：こんなとき

どう言う？ フランス旅行編

スペイン語会話110番：こんなとき

どう言う？ 日常生活編

250語のできるやさしい中国語会話

250語のできるやさしいフランス語
会話

250語のできるやさしいドイツ語会
話

外国人が日本人によく聞く100の質
問：君は英語で日本について話せ
るか

スペイン人が日本人によく聞く100
の質問

やさしく話すアメリカ英語：ひとく
ち旅行会話

やさしく話すドイツ語：ひとくち旅
行会話

やさしく話すフランス語：パリ旅行
会話

やさしく話すスペイン語：ひとくち
旅行会話

トラベル英会話手帳：すぐに通じる
決まり文句1600

トラベル中国語会話手帳

トラベル香港・広東語会話手帳

トラベル韓国語会話手帳

トラベルインドネシア語会話手帳

トラベルタイ語会話手帳

トラベルマレーシア語会話手帳

トラベルフランス語会話手帳

トラベルスペイン語会話手帳

英語（ミニ通訳 海外旅行会話1）
フランス語

（ミニ通訳 海外旅行会話2）

ドイツ語

（ミニ通訳 海外旅行会話3）

イタリア語

（ミニ通訳 海外旅行会話5）

ロシア語

（ミニ通訳 海外旅行会話6）

中国語

（ミニ通訳 海外旅行会話7）

韓国語

（ミニ通訳 海外旅行会話8）

広東語

（ミニ通訳 海外旅行会話9）

インドネシア語

（ミニ通訳 海外旅行会話10）

タイ語

（ミニ通訳 海外旅行会話11）

ブラジルポルトガル語

（ミニ通訳 海外旅行会話12）

アラビア語

（ミニ通訳 海外旅行会話13）

マレーシア語

（ミニ通訳 海外旅行会話14）

East West 1

East West 2

旅行者のためのドイツ語会話

旅行者のためのフランス語会話

旅行者のための中国語会話

英会話リズムワールド

（地球人ブックス1）

Grand Large 1

Grand Large 2

Prenez la Parole

Bien Reçu

Learning to Read Russian

英検2級ヒアリングテスト既出問題
'89年度用

60 Voix, 60 Exercices

うたおうクリスマス！

マザーグースとあそぶ本

詩とナーサリー・ライム第1集

詩とナーサリー・ライム第2集

詩とナーサリー・ライム第3集

教師のための英語発音

英語発音ハンドブック

映像資料

ビデオで巡るバイエルンの旅

= Eine Reise durch Bayern

フルメタル・ジャケット = Full

Metal Jacket

ザ・デッド = The Dead

日本語の教え方

Viens Jouer avec Nous 1

Viens Jouer avec Nous 2

ゴヤの生涯 = Goya

English Literature : Chaucer and
the Medieval Period

English Literature : Eighteenth
Century

末代皇帝 = The Last Emperor

音と映像による世界民族音楽大系

録音資料（継続）

Active English
English Express
The English Journal
FEN ガイド
時事英語研究
Kiddy Cat
日本語ジャーナル
Media-France

映像資料（継続）

Espana al Dia
France-TV Magazine

☆図書

増訂 饗文丛刻（上巻）
说文释例
中国大百科全书（中国文学 1）
英汉双解基本词汇词典
汉英时事外交词典
廣韻韻圖
汉语成语分类词典
简明汉语义类词典
甲骨学小词典
现代实用民法词典
壮侗语族谚语
汉世词典
现代汉语常用字表
蒙古族格言俗语集萃
语言研究（总 5，总 6，总 8）
文言修辞概要
西宁方言志
大辞林
小学館ロベール仏和大辞典
日本方言大辞典 全 3 卷
漢語文典叢書 索引
古汉语通用字字典
フランス文法論
古プロヴァンス語文法
古フランス語文法
ロマンス語比較文法
薔薇の物語
聖杯の物語、またはペルスヴァルの物語
全国大学職員録 '89 国公立大学編、
'89 私立大学編

コスモス朝和辞典
フランス文法論
英語年鑑（89 年版、90 年版）
ラフカディオ・ハーン著作集（1～15）
學術雑誌総合目録 欧文編 1988 年版
（1～5）
日本の言語学（8）
講座国語史（4．文法史）
日本人の考え方を英語で説明する辞典
言語学大辞典（第 2 巻 世界言語編 中）
スペイン語学研究論文集（1～10）
オックスフォード現代英英辞典
日本語大辞典
スラブのことわざ
現代の英語学シリーズ
（1、4、7、9、10）
中国成语大辞典
汉英电子技术词汇
中医人名辞典
吴语论丛
实用古汉语虚词详释
古今成语词典
日汉港工词典
類篇研究（中國語言學叢刊 5）
漢語的照應與刪簡
汉字解形辨似手册
王力文集（10）
説文古籀補補
略语手册
修辞新论
文言讀本續編
四川方言词典
字樣學研究
霍懋征语文教学经验谈
語文論集（3）
成都话方言词典
尔雅今注
古汉语语法
新信息技术词典
魏晋南北朝小说词语汇释
中国文法革新论丛（汉语语法丛书）
中国文学语言发展史略
語言學論叢（15）

錢玄同音学论著选辑
汉语比较变换语法
古籍整理與研究
（总第 3 期 1987 年第 2 期）
音韵学教程
文言语法讲话
声律启蒙（中国古代教育文献丛书之一）
中学教材文言词语辨析
日汉水利水电工程词典
中医人物词典
袖珍日语外来语词典
敦煌變文学義通釋（第 4 次増訂本）
中國文字學概要 文字形義學
（楊樹達文集之 9）
汉语实践语音
汉字古今谈
歇后语手册
唐宋词鉴赏辞典 南宋・辽・金
世界文学家大辞典
日语 5000 基本词汇词典
小学生实用词语手册
语言学史概要
日英汉海洋钻井及油矿词典
十韻彙編研究（上、下）
语音常识
语言研究论丛（3）
写作（高等教育自学考试汉语言文学专业用书）
シンポジウム中国古文字と殷周文化
現代写作学
中國古代語言學文選
中国语历史文法
辭源（修訂本 1—4 合訂本）
唐宋词常用语辞典
中学语文常用词词典（初中卷）
工商谚语行话手册
敦煌语言文学研究
简明东北方言词典
周祖謨語言文史論集
语文基础知识实用辞典
現代漢語常用格式例釋
简明教育辞典